

平成23年度 第5回
しあわせ倍増プラン2009市民評価委員会 次第

平成23年8月5日（金） 19:00～21:00
浦和コミュニティセンター 第13集会室

1 開 会

2 議 題

- (1) 「しあわせ倍増プラン2009」取組実績及び達成度等の
評価について（*評価対象事業：23事業）

3 その他

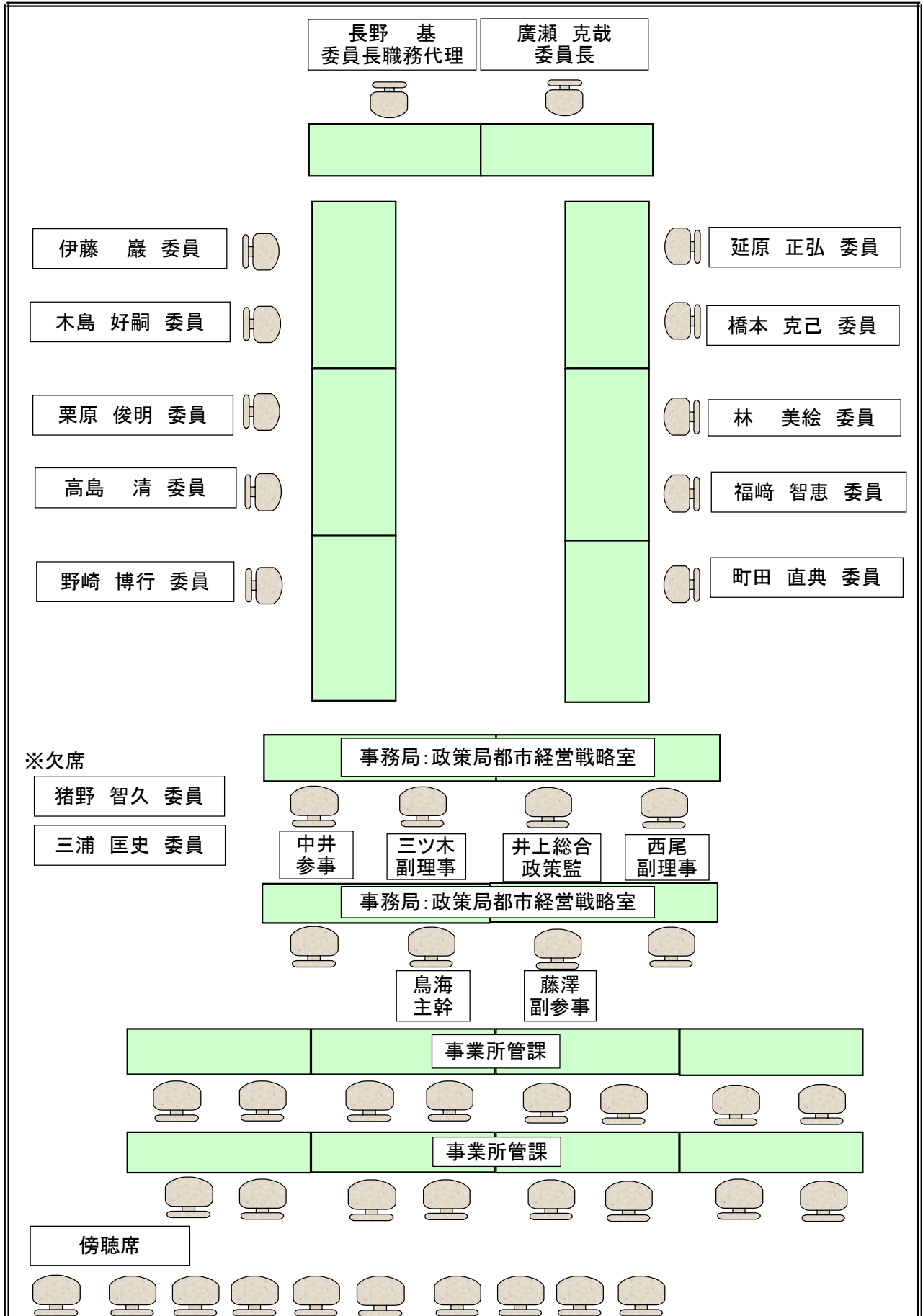
4 閉 会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 座席表
- ・ 所管課職員出席者一覧
- ・ 委員評価取りまとめシート
 - ヒアリング実施10事業 (資料1-1)
 - 委員評価取りまとめ一覧 (資料1-2)
 - ヒアリング対象外13事業 (資料2-1)
 - 委員評価取りまとめ一覧 (資料2-2)
- ・ 開催日程別評価事業一覧 (資料3)

平成23年度 第5回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会 座席表

日時:平成23年8月5日(金) 午後7時00分～
会場:浦和コミュニティセンター第13集会室



平成23年度 第5回 しあわせ倍増プラン2009 市民評価委員会

所管課職員出席者一覧

宣言・分野	No.	項 目	所 管 課	出席者		
				職 名	氏 名	
健康・安全・安心 (7/17)	39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)				
		39-1	総合防災情報システムの構築	防災課	課 長	大成 義之
		39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	安心安全課	課 長	会田 浩一
		39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	防災課	課 長	大成 義之
		39-4	災害時要援護者への支援	防災課	課 長	大成 義之
		39-5	マンホールトイレの整備	防災課	課 長	大成 義之
		39-6	新型インフルエンザ対策	地域医療課	課 長	海老名 英治
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)		建築総務課	課 長	遠藤 博久	
環境・まちづくり (3/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。 (4年以内)		地球温暖化対策課	課 長	大熊 研二
				交通防犯課	参事兼課長	高窪 浩
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)		地球温暖化対策課	課 長	大熊 研二
				学校施設課	課 長	原 修
47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)		文化振興課	課 長	曾根 康治	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-1 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全・安心	39-1	万全な危機管理体制の構築 (総合防災情報システムの構築)	4年以内	・24年度末までに災害発生時に迅速で的確な情報の收拾と提供を行うため、総合防災情報システムを構築	①他市のシステムの調査研究 ②複数業者の防災情報システムの調査研究 ③システム構築の基本方針の決定	①整備済の他の指定都市のシステムの調査研究 ②複数業者のプレゼンテーションを実施 ③システム構築の基本方針の決定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	職員の配置状況も考慮すべき予算計上については判らない。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	概ね、工程表通りの進捗であると判断する。なお、予算ゼロ円で、どうやって他都市の情報を分析を行うかは不明である。(現地ヒアリングなし?)
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	H24年度末までに完成予定だが、少しでも早く完成されたい。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。現在の状況を踏まえ、計画実施、目標の再設定を行っていただきたいと思います。
林委員	b	→	7	H24年度末にシステムの構築完了とのことだが、別添の基本方針4.(3)①防災情報ポータルサイト等、早く公開できるものは早くスタートさせた方がよい。また、リスク回避でデータセンターを複数箇所とし、分散させてデータを退避保存したりする方法もあるが、このデータセンターは一ヶ所か。
廣瀬委員	b	↘	6	各種パッケージの機能比較先行の「導入検討」が行われているようだが、さいたま市にとってどのような要件を満たすシステムが必要なのかについての検討が少なくとも並行していなければならないはず。それが見えてこないのが減点した。
福崎委員	b	→	7	全体としてシステム完成に間にあうペースで進んでいるのなら、言うことはありません。
町田委員	b	→	7	地域に住まう人々が安心して生活できるためにも災害時の防災情報は必要です。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。東日本大震災を踏まえた新たな課題への対応は、23年度の重要事項として注目する。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-2 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全・安心	39-2	万全な危機管理体制の構築 (危機事案発生時の初動体制の確保)	4年以内	・危機事案発生時の初動体制の確保を図るため、21年9月から職員の宿日直体制整備 ・21年度中に職員参集システム構築	①引き続き、管理職職員2名による宿日直体制を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を3回実施	①危機事案発生時の対応方法を習得するため、宿日直対象者へ研修を実施 ②職員参集システムの配信試験・訓練を3回実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	体制の認知度についても問題である。配置状況については判らない。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	昨年同様の質問ですが、個人の携帯電話を参集システムに組み込む方針に変わりはないのでしょうか？
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。3月の震災時の状況が聞きたい。
長野委員	b	→	7	工程表通りの実施内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	運用部分の充実が過剰となる程に必要。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。計画実施、目標の再設定を行っていただきたいと思います。
林委員	b	→	7	・この職員参集システムは、単体のパッケージ等を購入しているのか？ ・H22年度の事業費が500万円超増加しているが、宿日直体制の人員費とシステム費用でよいか。
廣瀬委員	b	→	7	東日本大震災で実際に検証されたことになるのか。そうであれば、所期の成果があがったと評価しているのか、修正すべき点が見えたのか。
福崎委員	b	→	7	モチベーションの維持をお願いします。
町田委員	b	→	7	地域生活の安全性を確保するためにも災害初動活動の体制づくりをしておくことは重要です。
三浦委員	b	↘	6	工程通り進捗と評価するが、昨年度の市民評価委員会指摘（緊急連絡用携帯電話の貸与）への対応が図られていないので減点。 東日本大震災後に、さいたま市内にも避難所が開設され、職員宿日直体制や携帯電話等による緊急連絡の現状と課題が明らかとなっている。 23年度の対応状況を注視したい。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-3 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全 ・安心	39-3	万全な危機管理体制の構築 (防災ボランティアコーディネーター の養成と避難場所運営体制の構築)	4年 以内	・24年度末までに防災ボランティアコーディネーター600人、 防災士500人養成 ・24年度末までに避難場所運営委員会を公民館を除き全避難場所 で設置	①防災ボランティアコーディネーター200人、 防災士150人を養成 ②避難場所運営委員会を26ヶ所設置	①防災ボランティアコーディネーター198人、 防災士137人を養成 ②★避難場所運営委員会を12ヶ所設置	c	→	4	・防災ボランティアコーディネーター及び防災士養成について、概ね目標のとおり進捗したものの、避難場所運営委員会の設置が12ヶ所にとどまったことから、進捗度を「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	↘	3	講習会の実施を良とするが、委員会は構成員の声が伝わって来ない。
猪野委員	c	→	4	避難場所運営委員会の設置に遅れがある。
木島委員	d	→	1	評価理由：避難場所運営委員会設置は達成率46%（実績12/目標26）により大幅未達。かつ防災士達成率91%（実績137/目標150）は評価理由にある「概ね目標通り」とは言えず、未達。
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	c	→	4	施策の柱である避難所運営委員会設置が目標の半分以下であった。なお、大量に育成されている防災コーディネーター、防災士の継続的な訓練・スキルアップの状況についてモニターする仕組みが盛り込まれれば、水準の一定の監視が出来るのではないかとと思われる。現状では、講座修了者の避難所運営に当たっての実働力が測定されていない。
野崎委員	c	↗	5	概ね目標のとおり進捗されましたが、やはり設置数が目標の半分に達していませんので、本年の震災のこともあり、今後に期待いたします。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	避難場所運営委員会の遅れが目立ちます。よりスピーディーに対応を願います。
林委員	c	→	4	防災士の受講者枠は150人きっかりではなく、ゆとりをもって実施すべき。結果として防災士が目標より多少増えても、何ら悪くはない。防災士の3日間の研修内容は、どのようなものか？
廣瀬委員	c	→	4	東日本大震災の経験は、進捗が芳しくない避難所運営委員会の設置にとっても、再起動するのにふさわしい機会ではないか。これを機に遅れが取り戻されることを期待したい。
福崎委員	c	→	4	全ヶ所設置は、行政だからこそ出来ること。ぜひ今年度でキャッチアップしてほしいと思います。
町田委員	c	↗	5	ボランティアコーディネーターの養成のみならず避難所運営委員会の設置は先駆的でもあり評価したい。自主的な防災活動は災害初期の段階での被害拡大を阻止するためにも重要であり、そこに住まう人々が日頃の危機管理体制を周知するうえで、街づくりの視点においても積極的に体制づくりをすべきだと思います。
三浦委員	c	→	4	避難場所運営委員会は、さいたま市の防災体制、災害対応の要となる仕組みと考える。工程通りに進捗した防災ボランティアコーディネーター、防災士の養成事業が、避難場所運営委員会の組織化と活動活性化に有機的に結びつくよう、政策的意図を持った働きかけが必要と考える。
委員会評価 (平均点)	c		3.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-4 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加減点	点数	評価理由
5 健康・安全・安心	39-4	万全な危機管理体制の構築 (災害時要援護者への支援)	4年以内	・23年度までに災害時要援護者への支援を充実するため、「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定	①高齢者名簿の更新・配布 ②障害者名簿の配布	①高齢者名簿の更新・配布 ②障害者名簿の配布 ③モデル地区での個別避難支援プラン策定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加減点	点数	
伊藤委員	b	↘	6	支援内容及び対応する組織体制に問題がある。(配ることで完了ではない)
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↗	8	モデル地区での個別避難支援プラン策定を加点要素とした。
長野委員	b	→	7	工程表通りの進捗である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。名簿配布状況は昨年度に比べ改善されているのか、資料からは判断できませんでした。
林委員	b	→	7	質問シート②に挙げられている回答(39-4②)で、バインダーの購入費に他事業費残を利用したとあるが、何の費用にせよ別として考え、きちんと事業費を記載してほしい。
廣瀬委員	b	↗	8	個別避難支援プランのモデル地区での作成など、予定よりも若干進捗が早い点を加点要素とした。
福崎委員	b	→	7	「支援の充実」のため、今後も、「平常時の対応」に挙げられた取組みを促せるような単年度目標を立ててほしいです。
町田委員	b	→	7	具体的な行動マニュアルとして「個別避難支援プラン作成マニュアル」を策定し、高齢者名簿の配布や更新を予定どおり実施したことで予定どおり評価しました。
三浦委員	c	→	4	平成21年6月配布の高齢者世帯名簿は、平成20年度の民生委員児童委員の調査に基づいてる。2年経過して死亡者・転出者削除だけで再調査(追加登録者の把握)をせずに配布したもので、事業工程にある「更新」の内実を欠いている。また、障がい者名簿も私が体験した障がい当事者へのヒアリングで、認識(認知度)が高くないと感じているためc-4評価。このような取り組みは、防災課単独では対応が困難と推察する。課題を庁内で共有して連携体制の構築を図るべきと考える。
委員会評価(平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-5（第5回委員会：8月5日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全 ・安心	39-5	万全な危機管理体制の構築 (マンホールトイレの整備)	4年 以内	・24年度末までに避難場所の市立小・中・高校100校に600基の災害用マンホール型トイレを整備	・平成23年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に180基設置。	・平成23年3月までに、各区3校、計30校の避難場所に192基を設置。	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等 のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	件数については予定どおりであるがPR不足を感じる。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表での目標を達成できている。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↘	6	目標設定値が現実的でない程低いので評価減。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。 設置箇所やアクセス面等を考え、前倒しの計画実施を望みます。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りの進捗。
福崎委員	b	↗	8	マンホールトイレの問題点を把握しており、他市と連携して情報集めを行っていると感じたので、加点しました。
町田委員	b	→	7	災害時のトイレと水はなくてはならないもの。定期的なメンテナンスを含め有意義な整備としていてもらいたい
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-6（第5回委員会：8月5日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全 ・安心	39-6	万全な危機管理体制の構築 (新型インフルエンザ対策)	4年 以内	・21年10月末までに新型インフルエンザ行動計画を改訂 ・抗インフルエンザウイルス薬など計画的備蓄	①市行動計画の適時改定 ②抗インフルエンザウイルス薬の計画的備蓄 ③新型インフルエンザ対策検討会を通じた体制検討	①市行動計画の改定準備 ②抗インフルエンザウイルス薬12万人分追加 ③対策検討会2回開催	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	医療体制の内容については判りません。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	薬の備蓄ほか、工程表通りと判断する。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	新薬2品目の備蓄の必要がある。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗。対策検討会・専門部会の開催数が21年に比べて少ないのは、インフルエンザの流行の状況による違いということなのか。
福崎委員	b	↘	6	近年のインフルエンザ国内発生時、行動計画に記載されているような、市の自律的な行動があったように見られませんでした。市の取り組みが遠いように感じる市民は多いと思います。
町田委員	b	→	7	対策検討会を数回開催したことやウイルス備蓄が実現したことで予定どおりと判断。新型インフルエンザだけでなく、緊急時の危機管理体制にも応用できる内容です。様々な緊急時でも使用できる行動計画としてもらいたい
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-7 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
5 健康・安全・安心	40	民間住宅の耐震化補助事業の拡充	すぐ	・21年度末までに耐震化補助事業の見直しを行い、22年度から耐震補助等助成事業を拡充	①耐震診断(戸建住宅) 10棟 ②〃(共同住宅等) 1棟(40戸) ③耐震改修(戸建住宅) 70棟 ④〃(共同住宅等) 1棟(40戸) ⑤建替え(戸建住宅) 100棟 ⑥耐震シェルター 50棟 (予算措置件数)	①△耐震診断(戸建住宅) 34棟 ②▼〃(共同住宅等) 1棟(11戸) ③▼耐震改修(戸建住宅) 46棟 ④▼〃(共同住宅等) 0棟(0戸) ⑤▼建替え(戸建住宅) 20棟 ⑥▼耐震シェルター 0棟	b	↓	6	・耐震化補助事業については、平成22年度の数値目標、取組内容、工程表のとおり実施していることから進捗度を「b」と判断しました。 ・耐震化の必要性が認知されていない等により、助成金の交付件数が、予算計上した予定件数に対し、全体的に下回っていることを減点評価しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	↓	6	目標の件数に達していない為の評価とした。
猪野委員	c	→	4	全体として目標値に対して遅れがある。
木島委員	d	↓	0	評価理由：主な目標6つに対し、5つが遅延している時点で大幅遅延とする。かつ、目標に対し、一棟も達成できていないものや達成率が極端に低いものがあることから減点
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	c	→	4	「予算措置された件数」とはいえ、具体的に立てた目標の数値と大きく開きがあるのでこの評価とした。
長野委員	c	↗	5	回収・建替えの実績は年次目標に届かなかった。東日本大震災後の市民の認識変化により、利用動向に変化が生じることは予想されるが、今回の実績からすると、年次目標を「薄く広く」型から「集中投入」型へ転換したほうが良いのかもしれない。なお、事業目標を「耐震化率90%(H27)」としているため、年度間での耐震化率の推移も参考情報として記載するようにしていただきたい。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しましたが、今後は関心が高まっていく事業ですので、情報提供を確りと行って行っていただきたい。
延原委員	c	↗	5	H27の耐震化率90%の中心目標に対し、H22の耐震化率の実績記載がなく、かつ、H24の耐震化率目標がないので減点。
橋本委員	c	→	4	震災前後での数値に違いがあるのかもしれないが、全般的に取り組みとしては遅れている。この政策が市民のニーズと合致しているのかどうか、検証が必要なのではないか。
林委員	c	↗	5	実際の成果を上げることが本来の目的のため、定量目標も大事。目標③以降⑥までの遅れが目立つ。減点2点で「c」と判断。
廣瀬委員	b	↓	6	内部評価と同じ
福崎委員	c	→	4	予想が甘かったことは、問題です。初期の予算配分の失敗は、事業の遅れにつながります。他の事業へ影響したのではないのでしょうか。一転して今年度は、3.11の影響で、交付件数が増加すると思います。十分な対応を望みます。
町田委員	b	↓	6	耐震対策は必要なことだが、原則は個人責任によるものとも考える。耐震対策を施した結果、通風や機能性が劣り健康面で問題となる建物になることもままある。補強量の差異にもよるが安全安心な住まいはどうあるべきかを考える契機としての事業という側面もあるのではないのか。行政の援助をしてまで実施することの合理性をそれぞれの市民が考えることが必要だとも思う。
三浦委員	b	↓	6	工程の制度創設に係る目標は達成したが、予算づけの根拠となる制度活用実績が少ないのでb-6。築年数の長い高齢者世帯の住戸など、耐震補強を積極的に推進すべき物件は、行政側で抽出して個別に働きかけるといった施策展開を検討する必要があると考える。
委員会評価 (平均点)	c		4.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-8 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。	4年以内	・24年度末までに市有施設のLED化率を10% ・24年度末までに街路灯4,000灯のLED化	①市有施設LED化2施設 ②LED街路灯1,000灯設置	①市有施設LED化2施設 ②☆LED街路灯1,606灯設置	a	→	9	・市有施設及び街路灯のLED化について、平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗。また、街路灯のLED化については、当初目標を606灯上回る設置をしたので「a」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	大いに期待するが、予算的な事も配慮すべき。
猪野委員	b	↗	8	「LED街路灯設置」が目標値を上回っていることを加点評価。
木島委員	a	→	9	評価理由：LED達成率161%（実績1606/目標1000）を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↗	8	LED灯の価格低下が主たる原因かは定かではないが、計画目標を上回るペースで街路灯のLED化が進んでいる。
野崎委員	a	→	9	計画を上回って、進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↗	8	・資金を投入すれば達成できるので減点。 ・LED化するためのコスト増について今年も説明なし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。 当初予定と状況が激変しており、目標設定の変更が必要なのではないか。
林委員	a	→	9	④取組実績（課題）の「来訪者の目にとまりやすい設置場所を選択する」の意味は？
廣瀬委員	a	→	9	予定以上のペースで順調に進んでいる。
福崎委員	a	→	9	エネルギー消費やCO2量の変化に期待します。LED化への投資分を回収すると共に、地方発信で、国および国際社会の方針を後押しできるように、記録と公表をお願いします。
町田委員	a	→	9	LED照明の事業化は環境意識の啓発としては有効と思うが、CO2排出量や環境コストの試算には配慮が必要と考える。
三浦委員	b	↗	8	ほぼ工程通りで灯数の増が加点要素。LEDの普及に伴う低価格化が追い風となったと見る。
委員会評価 (平均点)	a		8.6	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-9 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
6 環境・まちづくり	43	太陽光発電設備の設置を推進します。	4年以内	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度末までに太陽光発電設備を設置する市有施設を22施設、460KW増、太陽光発電能力を170KWから630KWへ ・23年度末までに住宅用太陽光発電設備設置補助を継続、太陽光発電能力を戸建(4KW)1,375戸に相当する総計5,500KWへ 	<ul style="list-style-type: none"> ①市有2施設に太陽光発電設備設置 ②住宅用太陽光発電設置への補助(2,000kW) ③小・中学校8校に太陽光発電設備設置(うち4校は前年度未設置分) 	<ul style="list-style-type: none"> ①市有2施設に太陽光発電設備設置 ②住宅用太陽光発電設置への補助(2,161.17kW:594件) ③小・中学校8校に太陽光発電設備整備(うち4校は設置完了、4校は着工済) 	b	→	7	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	時代の流れで進めるべきである。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↘	6	評価理由：主な目標③8校設置目標に対し4校が未達だが、着手済みのため進捗度bとし未達分は減点のみ
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	概ね、工程表通りの内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。しかしながら、現状においては事業計画を見直しより多くの施設での実施も検討されては。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。当初予定と状況が激変しており、目標設定の変更が必要なのではないか。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗。
福崎委員	b	→	7	巨額の投資です。設置校の教育カリキュラムに利用するなど、発電設備がさいたま市の教育機関の特色となるほど、この事業が包括的な市政計画の中に位置付けられるといいと思います。
町田委員	b	→	7	自然エネルギー活用という普及啓発事業としての役割りとして大きいものがあると思う。本来の環境配慮とは、従前のライフスタイルを見直しエネルギー使用そのものを見直すことに意味があると個人的には考えている。
三浦委員	b	→	7	着工済みを含め工程通り進捗と評価。

委員会評価 (平均点)	b		6.9	
----------------	---	--	-----	--

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング実施事業 No.4-10 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
6 環境・まちづくり	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。	3年以内	・22年度末までに建設事業費における1%を文化・芸術事業に充てる仕組みづくり	①22年度末までに建設事業費における1%を文化・芸術事業に充てる仕組みの構築 ②平成23年度からの新たな文化・芸術事業の検討	①建設事業費における1%を文化・芸術事業に充てる仕組みの構築 ②▼平成23年度の新たな文化・芸術事業を検討・決定したが、基金設置条例は継続審議となった。	b	↓	6	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したため、「b」と判断したが、基金設置条例が継続審議となったため、減点した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	↓	6	文化芸術事業にあまりにも少なく感じているが、ソフト面の充実を願う。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	↓	6	評価理由：主な目標①が達成しているためbとするが、②が未達のため減点。 コメント：主な目標②があいまいで、具体的に何を行ったときに目標達成となるのかが不明。そのため自己評価どおりとしたが、H23年度は測定可能な目標設定を行ってほしい
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	c	→	4	市長の直接的な予算調製権が行使できる一般財源ベースでの「建設事業費1%」を文化・芸術事業に当てる仕組みが構築されたと報告されているが、当該の市長の予算調製権を拘束するようなルールの記述が把握できず、達成とされたとは判定できない。
野崎委員	b	↓	6	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↓	6	特になし。
橋本委員	c	→	4	昨年度の遅れを取り戻すべく、迅速な対応が感じられない、遅れがあると判断しました。
林委員	b	↓	6	・基金条例の制定によって、「建設事業費の1%を充てる仕組み」が具体化されるということなのか？ ・工程表のH23年度事業費の2,904万円は、主に10周年記念の2つの事業費用か。
廣瀬委員	b	↓	6	内部評価と同じ
福崎委員	b	↓	6	具体的な事業内容とその進展度が報告されることを望みます。
町田委員	b	↓	6	文化都市としての施策は魅力あるまちづくりの観点からも興味があるところですが。民間や個人ではできない事業であることから行政が力を入れる分野だと考えています。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。 条例の継続審議は市議会の判断であり、本委員会が評価すべき対象ではないと考える。
委員会評価 (平均点)	b		5.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-1 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
5 健康・安全 ・安心	39-7	万全な危機管理体制の構築 (地域防犯ステーションなどの増設と 自主防犯パトロールの促進)	4年 以内	・24年度末までに地域防犯ステーションや公共施設などを利用した防犯パトロール拠点施設を20か所 ・24年度までに自主防犯活動団体を760団体	①パトロール拠点施設の検討・設置5か所(累計11か所) ②自主防犯活動団体数19団体増(累計740団体)	①パトロール拠点施設の検討・設置5か所(累計11か所) ②★自主防犯活動団体数5団体減(累計716団体)	c	→	4	・拠点施設については進捗したもの、自主防犯活動団体について前年から5団体減少していることから「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	自主防犯の拠点とするには財政的な応援が必要。
猪野委員	c	→	4	自主防犯活動団体数が減少しており、目標に遅れがある。
木島委員	c	→	4	評価理由：未達
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	自主防犯活動団体数が減った原因の分析を早急にし、遅れを取り戻してほしい。
長野委員	c	→	4	事業の二本柱のうち、社会的成果としての自主防犯活動団体の内容が年次目標に届かなかった。
野崎委員	c	↗	5	前年度の達成率を鑑みますと、大幅な増加は困難であったように感じますが、最終的な団体数の達成を目指すのであればより一層の啓発を行わなければならないと、感じます。
延原委員	c	→	4	自主防犯活動団体数が減少した理由によっては評価を変更する。
橋本委員	c	→	4	活動継続の為の啓発活動や支援活動が重要。震災を経てどのように街づくりをしていくか、トータルな視点が必要なのではないか。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	減少という事態をどう分析しているのか。
福崎委員	c	→	4	都市化するほど、難しい事業になると思います。
町田委員	c	→	4	地域防犯活動を安全面だけでなくそこで住む人にびとの心豊かさにつながるものにしていってもらいたい
三浦委員	c	→	4	工程に比べ自主防犯活動団体の減少でc-4と評価。 ただし、減少理由の分析が必要で、必ずしも助成金を受け取る地域防犯活動団体の数が多ければよいとも思わない。
委員会評価 (平均点)	c		4.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-2 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点 数	評価理由
5 健康・安全 ・安心	41	障害者自立支援法の時限措置終了後も市独自の負担軽減策継続	すぐ	・国の動向を踏まえつつ、市独自負担軽減策を継続	①国の動向についての情報収集 ②平成23年度の本事業のあり方についての検討	①国の動向についての情報収集 ②平成23年度の事業の継続	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点 数	
伊藤委員	b	→	7	判りません。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	予定通りの実施内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通り
福崎委員	b	→	7	「軽減策」の中身から、数値目標を挙げてほしいと思います。
町田委員	b	↘	6	障害者といわれている人々への支援を打ち切るにはまだ早い。社会的な認知が完全でなく個人の尊重を重視するにもやむなく障害者となってしまった人々への支援は必要。そろそろ。市独自の施策を提言してもいいのではないのか。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		6.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-3 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。	4年以内	・24年度末までに市域における次世代自動車台数6,000台を12,000台へ ・24年度末までに市公用車への次世代自動車導入率を76.1%にし、25年度末までに100%にすることを旨とする ・自動車からのCO2を年間6万トン削減	①E-KIZUNAサミット・フォーラムの開催 ②公用車への次世代自動車導入105台(導入率33.8%) ③公共施設(10箇所)へ急速充電器を設置	①△E-KIZUNAサミット・フォーラムの開催 ②★公用車への次世代自動車導入64台(導入率29.3%) ③公共施設(7区役所)へ急速充電器を設置	c	↑	5	・公用車への次世代自動車率先導入において、数値目標、取組内容、工程表等に遅れがあるため「c」と判断。ただし、E-KIZUNAサミット・フォーラムの実現に向けた取組を評価し加点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	↑	5	推進すべきである。
猪野委員	c	→	4	目標項目3つのうち、2項目に遅れがある。
木島委員	d	→	2	評価理由：目標三つに対し二つ未達、かつ達成率も低く大幅遅延（公用車次世代自動車達成率63%、急速充電器達成率70%）ただし、サミットの拡大・前倒し、および国への提言を評価し加点
栗原委員	c	↑	5	—
高島委員	c	→	4	公用車への導入が目標より大きく下回っているなのでこの評価とした。
長野委員	c	→	4	公用車のEV導入は目標に届かず。また、工程表にあるEV優遇策（「公共・商業施設における駐車料金の優遇等」）の実施については、実績が把握できなかった。
野崎委員	c	↑	5	導入台数が目標を、大きく下回ったと判断いたしました。車両タイプを用途を勘案して早期の切り替えをお願いしたい。
延原委員	c	→	4	E-KIZUNAフォーラムは加点する程のものではない。
橋本委員	c	→	4	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。エネルギー政策に対する市の考え方について説明が必要なのではないか？
林委員	c	→	4	・市域における次世代自動車の台数の、単年度目標と実績がほしい。 ・工程表に、「次世代自動車の普及促進」の行を追加し、そこにサミット開催や国への2回提言を記載すべき。 ・「充電セーフティネットの構築」の目標値と実績が、工程表に示されていないのはどういふわけか？
廣瀬委員	b	↓	6	概ね工程表に沿っているが、導入実績が目標値に届いていない点を減点した。
福岡委員	c	→	4	フォーラム開催の効果が今後現れて初めて評価につながるように思います。
町田委員	c	↑	5	公用車への導入率が若干ではあるが下回ったことでの評価。公用車約800台をすべてハイブリッドとするための必要経費が課題。
三浦委員	c	↑	5	公用車への導入が遅れている。ただし、公用車の買い換え、買い増しのタイミング（台数）に合理的に適合する目標値なのか？
委員会評価 (平均点)	c		4.4	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-4 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	45	さいたま新都心のサッカープラザは白紙撤回します。	すぐ	・さいたま新都心のサッカープラザは白紙撤回し、21年度中に、より市民のくらしや生活に密着し、かつ、にぎわいの創出が図れる導入機能を決定	・サッカープラザに替わる新たな市導入機能の決定 ・新たな市導入機能の具体化	・新たな市導入機能の具体化に向けた調査・検討を実施	c	→	4	・街区整備事業については、民間事業者の撤退により終結し、サッカープラザ計画は実質的に白紙撤回となったものの、新たな市導入機能の決定に至らなかったため、「c」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	市民の夢と希望を醸成するようなプランを検討すべきである。
猪野委員	c	→	4	導入機能の決定に至っていない。
木島委員	c	→	4	評価理由：未達
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	↘	3	—
長野委員	c	↘	3	新たな導入機能の決定・具体化は進んでいない。(事業前提そのものが変化したため、「判定不能」とするのが適切かもしれない)
野崎委員	c	↗	5	—
延原委員	b	↘	6	民間が経済合理性で撤退したので、大きく評価減する必要はない。
橋本委員	c	→	4	様々な関係機関との調整が必要であったようだが、市民の関心に対して迅速さが感じられなかったのが残念でした。
林委員	c	→	4	実現に向け実施しているとのことで、「c」とした。
廣瀬委員	c	→	4	導入機能を決定できなかったため、c段階と判断。
福崎委員	c	↘	3	今後の進展に期待します。
町田委員	c	↘	3	目標そのものがなくなり、新たな施策が提示されていないための評価。市民が集える施設として活用することを期待する
三浦委員	d	→	1	工程上は昨年度達成されるべき事項が今年度7月に完了したのみ。そもそも今年度目標が立てられていないので、無計画であることで大きく減点してd-1(ほとんど評価不能)
委員会評価 (平均点)	c		3.7	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-5（第5回委員会：8月5日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加 点 減 点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。	すぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・21年8月に交通空白地域や交通不便地区などの解消に向けた検討を行うため、有識者や市民などを委員とするコミュニティバス等検討委員会設置 ・22年度末までに委員会での検討内容をまとめ、市民に公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの路線等の検討として、コミュニティバス等導入ガイドラインの策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス等導入ガイドラインの策定 <p>△路線の決定には地域住民が参加できる制度とした</p>	b	↑	8	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度の主な目標であるコミュニティバス等導入ガイドラインが策定できたため、「b」と判断しました。 ・地域住民が運行計画の素案作成をできる制度の導入により、本市オリジナルのガイドラインを策定できたことを加点評価しました。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加 点 減 点	点数	
伊藤委員	b	↑	8	路線の変更や金額を配慮すべきで小型についても検討すべき。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	a	→	9	評価理由：プラン目標では検討委員会設置とその検討内容の公表となっており、その結果を出したことはもちろん、検討にとどまらず解決方法も策定しており（運行計画案を作成できる制度の制定）、不便を解消するための大きな成果を出し目標を上回ったと考えられる
栗原委員	b	↑	8	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	c	→	4	年次目標どおり、導入ガイドラインが策定された。住民による素案作成権導入については、都市計画における住民提案制度の存在等を鑑み、加点とはしなかった。ただし、工程表では「路線の公表」となっているので、路線が市民に向けて発表されているはずだが、実績は把握できなかった。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	本市オリジナルガイドラインの作成は加点する程ではない。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。昨年と同じポイントで加点評価は受け入れがたい。趣旨から考えるとスタンダードなポイントである。
林委員	b	↑	8	—
廣瀬委員	b	↑	8	地域住民が運行計画案を作成できる制度とした点を加点
福崎委員	b	→	7	コミュニティバス事業の問題点は、多くの市民の知るところです。問題解決への取り組みを示して、安心できる行政であってほしいと思います。
町田委員	b	→	7	住民の意見を聴く姿勢は評価できる。一方で住民意見がどこまで正当性の根拠として有効なのかが疑問。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.2	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-6 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-1	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(公園の芝生化)	4年以内	・24年度末までに芝生のある公園が各区2か所以上となるよう26公園	①3公園を芝生化 ②管理費の軽減について検討	①☆5公園を芝生化 ②市民協働の芝生管理を検討 △宮原東口公園については、管理の一部を自治会が実施	a	→	9	・3公園の芝生化の予定が5公園となったこと、また、市民協働については、検討のみではなく、先行して、管理の一部を自治会の協力が得られることになったことを評価し「a」と判断した。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	完成後の保守整備も含むことも検討すべき。
猪野委員	a	→	9	全体として目標を上回っている。
木島委員	a	→	9	評価理由：達成率166%（実績5/目標3）、一部管理費軽減を評価
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	b	↗	8	当初予算の枠内であるため、ある意味予定通りともいえるが、計画を上回る公選数での芝生整備が進んだ。一方、自治会との協力関係については、協約あるいは機関決定の内容が不明なため、加点とはしなかった。なお、宮原東口公園と下落合環境空間緑道では、予算金額と決算金額で、かなりの差異が生じている理由は不明である。
野崎委員	a	→	9	計画を上回って、進捗されたと判断しました。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	b	↗	8	目標数を上回ったので加点評価しました。
林委員	a	→	9	—
廣瀬委員	a	→	9	芝生整備を行った公園数が目標を大きく上回った。
福崎委員	a	→	9	自分の経験を踏まえ、幼少時に芝生で遊べる環境は大切だと思っています。事業の継続に期待します。
町田委員	a	→	9	市民の豊かな生活のための運動できる公園の設置は将来的にも必要と考える
三浦委員	a	→	9	整備件数増と住民組織による管理体制の実現を加点評価。 今後の整備推進に向けて、事例検討や管理体制の情報共有などを望む。また、住民組織の管理体制による経費節減効果の情報公開をきめ細かにすることも必要。
委員会評価 (平均点)	a		8.9	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-7（第5回委員会：8月5日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-2	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。（学校の芝生化）	4年以内	・24年度末までに芝生化した学校が各区2校となるよう14校増やし、20校 ・22年度末までに市民協働や民間技術支援などの地域社会連携による芝生維持管理システムの構築	①4校の芝生化 ②芝生維持管理システムの構築	①★3校の芝生化 ②芝生維持管理システムの構築	b	↓	6	・東日本大震災の影響等により桜木小・本太小の芝生化工事が年度内に完了しなかったことを減点。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	↓	6	維持管理体制も含め、今後を期待する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。震災の影響はやむをえず、未完成の学校については減点対象外。
木島委員	b	↓	6	評価理由：やむを得ない事情もあるが遅延のため減点
栗原委員	b	↓	6	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	↓	6	芝生化工事の遅れの分を減点とする。谷田小の取り組み（モデル事業）により、土尾程度の費用削減が可能となったのか、の提示も求められる。費用削減が目標のため、その達成金額の提示までの仮判定とする。
野崎委員	b	↓	6	概ね目標のとおり進捗されたと判断しました。
延原委員	b	↓	6	特になし。
橋本委員	b	↓	6	事業計画（工程表）のとおり、概ね進捗したと判断しました。芝生維持管理システムに関しては教員の負担増を感じます。負担軽減策は本事業継続の鍵になると思います。
林委員	b	↓	6	—
廣瀬委員	b	→	7	震災による遅延は減点とせず。
福崎委員	b	↓	6	自分の経験を踏まえ、幼少時に芝生で遊べる環境は大切だと思っています。事業の継続に期待します。
町田委員	b	↓	6	芝生の手入れは相当の労力を使うが児童や生徒の情操教育のためにも緑であふれる学校施設づくりは有効。市民にも開放された校庭とするならばもっと有意義。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。 震災の影響による工事スケジュールの遅れは減点要素とみない。 芝の校庭と土の校庭で放射線量に差はないか、さいたま市独自の調査を望む。
委員会評価 (平均点)	b		6.3	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-8 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-3	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(保育園の芝生化)	4年以内	・24年度末までに62園(全公立保育園)の園庭芝生化 ・22年度末までに市民協働や民間技術支援などの地域社会連携による芝生維持管理システムの構築	①公立保育園10園の園庭の芝生化実施 ②芝生維持管理システムの構築	①公立保育園10園の園庭の芝生化実施 ②民間の技術支援等による芝生維持管理システムの構築	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	維持管理体制も含め、今後を期待する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	どのような芝生維持システムが構築できたのか、それによる費用削減がどの程度なのか、把握できないため、仮判定とする。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画(工程表)のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	自分の経験を踏まえ、幼少時に芝生で遊べる環境は大切だと思っています。事業の継続に期待します。
町田委員	b	→	7	土とふれあう機会が少なくなっている都市部においては有効。市民・地域活動にも開放してボランティアによる整備園庭とするならばもっと有意義。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。 芝の園庭と土の園庭で放射線量に差はないか、さいたま市独自の調査を望む。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-9（第5回委員会：8月5日（金）開催）

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-4	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。（学校の緑のカーテン）	4年以内	・24年度末までにすべての市立学校で緑のカーテン事業実施	①既設小学校10校、新設小学校20校・中学校19校において実施 ②マニュアルの作成	①既設校（小学校10校）、新設校（小学校20校・中学校20校）において実施 ②マニュアルの作成	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のとおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	維持管理体制も含め、今後を期待する。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの実施内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のとおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	みどり倍増計画全般に言えることだが、環境の改善だけでなくひとの心も豊かになる良い取組みだと感じる。先日の現地視察により高砂小の緑のカーテンを見て、思っていたよりも清潔で、涼しげで、かつ実際の効果も高いと聞き、今後もっと市民の取組みが増えていけばよいと思う。
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	市が提供した大きなサイズのプランターが、成長促進に役立っていたようです。
町田委員	b	→	7	整備費用は低額で緑を創出できることに加え、緑の蒸散作用による空調費用の縮減にも効果がある。理科の教材としても有効活用できる壁面緑化は環境教育としても有益と考えます
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-10 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-5	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(公共施設・家庭の緑のカーテン)	4年以内	・24年度末までに緑のカーテン事業を実施する公共施設100か所に増 ・24年度末までに緑のカーテンに取り組む家庭を2,000家庭	①公共施設での実施30か所 ②家庭での取組500家庭 ③応援団の結成 ④取組の公表 ⑤講習会の開催	①☆公共施設76か所 ②☆家庭 1,127家庭 ③「緑のカーテンサポーター」の募集、支援 ④市ホームページで公表 ⑤講習会：受講者185名	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	a	→	9	維持管理体制も含め、今後を期待する。
猪野委員	a	→	9	当初の目標を大幅に上回る進捗。
木島委員	a	↗	10	評価理由：目標を上回っただけでなく、達成率大幅目標超を評価（公共施設253%（実績76/目標30）家庭225%（実績1,127/目標500））
栗原委員	a	→	9	—
高島委員	a	→	9	内部評価と同様の評価とした。
長野委員	a	→	9	一般家庭から予定を大きく上回る協力を得ることに成功している。
野崎委員	a	→	9	計画を上回って、進捗されたと判断しました。
延原委員	a	→	9	特になし。
橋本委員	b	↗	8	目標値を上回ったので加点評価しました。
林委員	a	→	9	—
廣瀬委員	a	→	9	公共施設、家庭ともに目標値を大幅に上回った
福崎委員	a	→	9	私の家でも、緑のカーテンを作っています。今年は、ネットを購入された方が増えたと、お店の方が仰っていました。
町田委員	a	→	9	同上、家庭においても自然と親しむ機会を増やす施策として有効と考えます
三浦委員	a	→	9	社会情勢にマッチした。
委員会評価 (平均点)	a		9.0	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-11 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-6	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(公共施設の緑化)	4年以内	・24年度末までに8施設以上の公共施設の屋上緑化・壁面緑化 ・22年度末までに未利用となっている全ての市有地から緑地化に適した土地を選定、24年度末までに選定した市有地の緑地化	①既存施設の調査、実施箇所・手法の検討 ②公共施設の屋上緑化・壁面緑化の実施 ③未利用市有地を緑地化するための調査・検討・選定	①現地調査等の結果等を踏まえ、緑化候補施設の選定 ②善前公民館の屋上緑化及び壁面緑化の実施 ③未利用市有地の調査結果を踏まえた選定作業及び常盤7丁目地内の緑地化を実施	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	緑化は言葉では簡単ですが維持管理を職員で実施してください。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	↗	8	未利用市有地 1 か所を前倒しして緑地化したことに加点。
長野委員	b	→	7	工程表通りの内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	子どもが暮らす環境作りに、とても大切なことです。
町田委員	b	→	7	屋上緑化のヒートアイランド対策としての効果は疑問がある。壁面緑化は、環境教育の機会としても常に目視できる場所であり効果がある。
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-12 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度 主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-7	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(民間建築物の緑化)	4年以内	・24年度末までに創出される緑化面積1,400㎡	①建築物緑化助成事業による緑化創出面積 400㎡	①建築物緑化助成事業による緑化創出(★面積 220.16㎡)	c	→	4	・平成22年度の数値目標を達成できなかったため、「c」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	c	→	4	緑化は言葉では簡単ですが維持管理を職員で実施してください。
猪野委員	c	→	4	目標に対し遅れがある。
木島委員	c	→	4	評価理由：達成率55%で未達（実績220㎡/目標400㎡）
栗原委員	c	→	4	—
高島委員	c	→	4	内部評価と同様の評価とした。目標達成できなかった原因の分析を早急にし、遅れを取り戻してほしい。
長野委員	c	→	4	緑化創出面積が目標に届かず。
野崎委員	c	↗	5	数値目標は達成されていないと判断しましたが、累積㎡は計画を上回っていると判断しました。
延原委員	c	→	4	特になし。
橋本委員	c	→	4	数値目標に大きな遅れがあると判断しました。街づくりの視点から市民とのコンセンサスが必要ではないかと感じます。
林委員	c	→	4	—
廣瀬委員	c	→	4	大幅に工程表よりも遅れている
福崎委員	c	→	4	今後のキャッチアップに期待します。
町田委員	c	→	4	建築物の助成事業が予定目標値の約50%に対する評価。
三浦委員	c	→	4	震災により耐震強化の改修ニーズが高まるとみられるので、緑化の推進との兼ね合いが課題となる。今年度以降、さらに当初目標達成が困難になることが考えられるので、何らかの具体的な対策を検討してもらいたい。
委員会評価 (平均点)	c		4.1	

【委員評価取りまとめシート】ヒアリング対象外 No.4-13 (第5回委員会:8月5日(金)開催)

宣言・分野	事業番号	倍増プラン事業名	期限	期限内の数値目標等	H22年度主な目標等	H22年度主な実績 ☆進捗度aの要素 ★進捗度cの要素 △加点要素 ▼減点要素	H22年度達成度 (内部評価)			
							進捗度	加点減点	点数	評価理由
6 環境・まちづくり	48-8	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(花と緑でいっぱい・区の花の制定)	4年以内	・23年度から市内全ての駅・駅周辺及び主要な観光スポットを区民等と協働して花や緑でいっぱい ・23年5月頃に市制10周年を記念して区の花を発表	①花と緑のまちづくり推進事業の仕組みを決定 ②花と緑のまちづくり推進事業を順次、実施 ③区の花策定委員会の設置と区の花の制定	①仕組みとして、10区で実施要領等を制定 ②花と緑のまちづくり推進事業を8区で実施 ③策定委員会や区民会議により、10区で区の花を制定	b	→	7	・平成22年度の数値目標、取組内容、工程表等のおり進捗したので「b」と判断。

委員名	達成度			「達成度」の評価理由等
	進捗度	加点減点	点数	
伊藤委員	b	→	7	緑化は言葉では簡単ですが維持管理を職員で実施してください。
猪野委員	b	→	7	工程表通り進捗。
木島委員	b	→	7	評価理由：目標通り
栗原委員	b	→	7	—
高島委員	b	→	7	工程表通り進んでいると判断した。
長野委員	b	→	7	工程表通りの内容である。
野崎委員	b	→	7	工程表通り進捗されたと判断しました。
延原委員	b	→	7	特になし。
橋本委員	b	→	7	事業計画（工程表）のおり、進捗したと判断しました。
林委員	b	→	7	—
廣瀬委員	b	→	7	工程表通りに進捗
福崎委員	b	→	7	花壇の整備された駅前が増えています。個人的に、とても癒されています。
町田委員	b	↗	8	地域住民に積極的に働きかけ、住民みずから積極的に関与できるような施策としてもらいたい。区の花のアイデアは評価
三浦委員	b	→	7	工程通り進捗と評価。
委員会評価 (平均点)	b		7.1	

平成23年度 市民評価委員会開催日程(予定)

	期日・時間	内容及びヒアリング対象事業(案)		
第1回 (終了)	6月6日(月) 19:00~21:00	・委嘱状交付式 ・評価の実施手法 ・今後の進め方		
第2回 (終了)	6月24日(金) 19:00~21:00	項目数 (事業数)	宣言・ 分野別	個別事業名 (事業番号 事業数)
		3項目 (10事業)	条例宣言 行財政改革	①ノーマライゼーション条例 (No.Ⅱ-3 1事業) ②行財政改革推進チームの設置 (No.1-1~1-5 5事業) ③すべての窓口業務を区役所で (No.2-1~2-4 4事業)
第3回 (終了)	7月8日(金) 19:00~21:00	4項目 (7事業)	行財政改革 子ども	④マッチングファンド制度創設 (No.15 1事業) ⑤児童虐待ゼロを目指し、職員を増員 (No.20-1~20-2 2事業) ⑥子ども博物館構想の推進 (No.22 1事業) ⑦待機児童ゼロプロジェクト (No.24-1~24-3 3事業)
第4回 (終了)	7月22日(金) 19:00~21:00	5項目 (7事業)	高齢者 健康・ 安心・安全	⑧介護する人への支援体制を充実 (No.31 1事業) ⑨高齢者サロン、介護サロン (No.33-1~33-2 2事業) ⑩シルバー人材センター (No.34 1事業) ⑪シニアユニバーシティの充実 (No.35 1事業) ⑫健康寿命の延伸~元気倍増大作戦~ (No.37-1~37-2 2事業)
第5回	8月5日(金) 19:00~21:00	5項目 (10事業)	健康・安 心・安全 環境・ まちづくり	⑬危機管理体制の構築 (No.39-1~39-6 6事業) ⑭民間住宅の耐震化補助事業拡充 (No.40 1事業) ⑮市内照明のLED化 (No.42 1事業) ⑯太陽光発電設備の設置推進 (No.43 1事業) ⑰新規建設事業費1%を文化・芸術のまちづくりに配分 (No.47 1事業)
第6回	8月19日(金) 19:00~21:00	2項目 (8事業)	環境・ まちづくり 経済・雇用	⑱市民が憩える場所づくりプロジェクト事業 (No.49-1~49-6 6事業) ⑲自立生活支援プロジェクト事業 (No.53-1~53-2 2事業)
第7回	8月30日(火) 19:00~21:00	3項目 (13事業)	経済・雇用 地域間対立	⑳雇用倍増プロジェクト (No.54-1~54-11 11事業) ㉑大宮駅東口開発 (No.60 1事業) ㉒地下鉄7号線 (No.61 1事業)
《合計》		21項目 (55事業)		
	9月14日(水) 19:00~21:00	予備日		
第8回	9月22日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
第9回	10月6日(木) 19:00~21:00	取りまとめ		
	10月13日(木) 19:00~21:00	予備日		
	10月15日(土) 13:30~15:30	◎「市民評価報告会」		

※上記項目数は関連事業のある項目やプロジェクト事業を1項目と計上しています。

※ヒアリング対象事業(案)は現時点での候補であり、今後、委員会での議論を踏まえ、ヒアリング事業の追加・割愛をすることもありますので、あらかじめご了承ください。

※第1回~第9回までの会場はいずれも浦和コミュニティセンター第13集会室、市民評価報告会は同センターの多目的ホールを予定しておりますが、委員会の進行状況等により、日程等を変更する場合があります。

《第2回 6月24日(金) 開催分》

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行動宣言 (5)	I-1	マニフェスト検証大会を毎年開催。(4年以内)			1		b	7.1
	I-2	タウンミーティングを全10区で計40回開催。(4年以内)			2		b	7.0
	I-3	現場訪問を400回実施。(4年以内)			3		b	7.1
	I-4	学校訪問を全校実施。(4年以内)			4		b	7.1
	I-5	職員との車座集いを100回開催。(4年以内)			5		b	7.0
条例宣言 (7)	II-1	市長任期を3期までとする、多選自粛条例を制定します。(すぐ)			6		d	0.6
	II-2	生涯スポーツを推進し、スポーツを活用した総合的なまちづくりを推進する「さいたま市スポーツ振興まちづくり条例」を制定します。(すぐ)			7		b	5.6
	II-3	障がい者も健体者も共に地域で暮らせるノーマライゼーション条例を制定します。(すぐ)			8	1	b	7.1
	II-4	一人ひとりの子どもが輝くために「子ども総合条例」を制定します。(2年以内)			9		d	3.9
	II-5	「文化都市創造条例」を制定します。(2年以内)			10		c	4.8
	II-6	さいたま市の憲法「自治基本条例」を市民参画で制定します。(3年以内)			11		b	6.4
	II-7	他市に類をみないスピードで進む高齢化に備えて「安心長生き条例」を制定します。(4年以内)			12		b	6.9
行財政改革 (14/28)	1	民間人専門家を入れた行政改革推進チームを、市長直轄組織として設置します。(すぐ)	1-1	行財政改革推進本部の設置	13	2	a	8.5
			1-2	事務事業評価の見直し	14	3	b	8.3
			1-3	補助事業の見直し	15	4	b	7.6
			1-4	外郭団体改革	16	5	b	6.9
			1-5	公共施設マネジメント会議設置	17	6	b	7.1
	2	すべての窓口業務を区役所で行えるようにします。(すぐ)	2-1	窓口改革・権限移譲(統括)	18	7	b	7.0
			2-2	予算	19	8	b	7.0
			2-3	組織・人事	20	9	b	5.9
			2-4	くらし応援室の設置	21	10	b	6.9
	3	区長マニフェストを全区長が策定するようにします。(すぐ)			22		b	5.9
	4	市長の退職手当を50%減額します。(すぐ)						
	5	市長給与を10%減額します。(すぐ)						
	6	指定管理者の指定などにおける透明性を確保します。(すぐ)			23		b	6.9
	7	一職員一改革提案制度を創設します。(すぐ)			24		b	8.2
8	政令市初の予算編成過程の透明化も含め、徹底的な情報公開を行います。(すぐ)	8-1	予算編成過程の公開	25		b	7.2	
		8-2	会派要望への対応状況の公表	26		b	6.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
行財政改革 (12/28)	9	情報公開日本一を実現します。(2年以内)	9-1	情報提供体制の整備	1		b	7.5
			9-2	都市経営戦略会議の審議内容等の公表	2		c	3.9
			9-3	パブリックコメントの充実	3		c	3.9
			9-4	パブリシティの推進	4		b	6.9
			9-5	身近な道路整備要望への対応状況の公表	5		b	8.2
			9-6	市へ寄せられた意見とその対応状況の公表	6		b	7.0
	10	外郭団体の長への市長・副市長の兼職を廃止します。(2年以内)			7		a	8.6
	11	職員の自動的な天下りを廃止します。(2年以内)			8		b	6.9
	12	行政職への民間人登用を含め、実力ある人を適材適所に配置します。(2年以内)	12-1	行政職への民間人登用	9		b	6.9
			12-2	民間企業等経験者の採用	10		b	7.7
			12-3	適材適所の人事配置	11		b	7.1
	13	電子市役所を構築します。(4年以内)			12		b	6.8
	市民・自治 (3)	14	区民会議・コミュニティ会議の活性化に向けた、検討会議を設置します。(すぐ)			13		b
15		市民活動を推進するための「マッチングファンド制度」を創設します。(2年以内)			14	1	c	4.4
16		大学コンソーシアムの仕組みを構築します。(4年以内)			15		b	7.0
子ども (24)	17	子どもの好奇心を伸ばすために、プロのスポーツ選手やアーティストなどによる授業を拡大します。(すぐ)			16		b	7.0
	18	基礎学力向上のための「読み・書き・そろばんプロジェクト」、基礎体力向上のための「なわとび・逆上がりプロジェクト」、生活習慣向上のための「あいさつ・礼儀」・「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。(2年以内)	18-1	読み・書き・そろばんプロジェクト	17		b	6.1
			18-2	なわとび・逆上がりプロジェクト	18		b	7.1
			18-3	あいさつ・礼儀	19		b	7.0
			18-4	早寝・早起き・朝ごはん	20		b	7.0
	19	「放課後子ども教室」を増増します。(2年以内)			21		b	6.9
	20	児童虐待ゼロを目指し、対応する職員(保健師、児童相談所員など)を増員します。(2年以内)	20-1	児童相談所の充実	22	2	b	7.1
			20-2	保健所の充実	23	3	b	7.0
	21	家庭・地域・学校が連携して取り組む「土曜日寺子屋」を実施します。(4年以内)			24		b	7.0
	22	子どもの創造力を高める「子ども博物館構想」を推進します。(4年以内)			25	4	c	4.2
	23	「子育てパパ応援プロジェクト」を推進します。(4年以内)	23-1	1日保育士体験	26		b	7.1
			23-2	子育て支援センターの活用	27		a	8.7
			23-3	ワークライフバランスの認知度向上	28		b	6.1
			23-4	親の学習などのアドバイザー育成・親育ち支援策	29		b	7.0
24	保育所・学童保育所「待機児童ゼロプロジェクト」を推進します。(4年以内)	24-1	認可保育所	30	5	a	8.7	
		24-2	ナーサリールーム・家庭保育室	31	6	a	8.9	
		24-3	放課後児童クラブ	32	7	c	4.1	

≪第3回 7月8日(金) 開催分≫

※ 網掛けは評価実施済みの事業

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
	25	北九州方式を参考とした小児救急体制や、産科救急体制を整備します。(4年以内)	25-1	小児救急	33		b	7.1
			25-2	産科救急	34		b	7.1
	26	高校教育の底上げを図り、質の高い特色のある学校づくりを推進します。(4年以内)			35		b	6.9
	27	一人ひとりの子どもが輝くために、心のサポート推進事業を充実します。(4年以内)			36		c	4.9
	28	ノーマライゼーションの理念の共有化に向け、障害のある人もない人も、誰もが同じように住み慣れた地域で暮らし学べるよう、特別支援教育を充実します。(4年以内)			37		b	7.0
	29	学校教育における食育を推進します。(4年以内)			38		b	6.8
	30	メディアリテラシー教育の充実と携帯・ネットアドバイザー制度を創設します。(4年以内)			39		b	7.0

※ 網掛けは評価実施済みの事業

《第4回 7月22日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数	市民評価委員会 達成度評価結果	
							進捗度	点数
高齢者 (7)	31	介護する人への支援体制を充実します。(すぐ)			1	1	b	7.0
	32	配食サービスの拡充を図り高齢者の自立を支援します。(すぐ)			2		b	7.0
	33	空き教室や空き店舗、遊休施設などを活用し、各区に高齢者サロン・介護者サロンを設置します。(4年以内)	33-1	高齢者サロン	3	2	b	7.1
			33-2	介護者サロン	4	3	b	6.8
	34	シルバー人材センターの充実や団塊の世代の市民活動の推進など、高齢者が地域で働く場を増やします。(4年以内)			5	4	c	4.5
	35	シニアユニバーシティを充実します。(4年以内)			6	5	c	4.6
	36	高齢者を対象とした、(仮称)シルバー元気応援ショップ制度(割引制度)を創設します。(4年以内)			7		b	7.4
健康 ・安全・安心 (8/17)	37	食生活や運動習慣の改善を支援し、健康寿命の延伸を目指します。～元気倍増大作戦～(4年以内)	37-1	食生活・運動	8	6	b	7.0
			37-2	介護予防	9	7	c	4.3
	38	遊休地などを活用した、スポーツもできる多目的広場を増殖します。(4年以内)	38-1	多目的広場整備方針の決定	10		b	6.1
			38-2	都市公園内のグラウンド等の個人への開放	11		b	7.6
			38-3	民有地を活用した多目的広場の整備	12		b	6.9
			38-4	「(仮称)スポーツふれあい広場」の整備	13		b	7.1
			38-5	大学との連携による多目的広場の整備	14		c	3.9
			38-6	農業関連施設へのスポーツもできる多目的広場の整備	15		b	7.0

《第5回 8月5日(金) 開催分》

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
健康 ・安全・安心 (9/17)	39	万全な危機管理体制を構築します。(4年以内)	39-1	総合防災情報システムの構築	1	1
			39-2	危機事案発生時の初動体制の確保	2	2
			39-3	防災ボランティアコーディネーターの養成と避難場所運営体制の構築	3	3
			39-4	災害時要援護者への支援	4	4
			39-5	マンホールトイレの整備	5	5
			39-6	新型インフルエンザ対策	6	6
			39-7	地域防犯ステーションなどの増設と自主防犯パトロールの促進	7	
40	民間住宅の耐震化補助事業を拡充します。(すぐ)			8	7	
41	障害者自立支援法の時限措置終了後も、市独自の負担軽減策を継続します。(すぐ)			9		
環境 ・まちづくり (11/25)	42	市内照明のLED化率全国1位を目指します。(4年以内)			10	8
	43	太陽光発電設備の設置を推進します。(4年以内)			11	9
	44	「E-KIZUNA Project」などの実施により、次世代自動車の普及を促進します。(4年以内)			12	
	45	さいたま新都心のサッカープラザ計画は白紙撤回します。(すぐ)			13	
	46	コミュニティバス路線の検討委員会を設置します。(すぐ)			14	
	47	新規建設事業費の1%を魅力ある文化・芸術のまちづくりに配分します。(3年以内)			15	10
	48	公園・市有地・校庭などの芝生化、緑のカーテン事業などで身近な緑を増やす「みどり倍増プロジェクト」を実施します。(4年以内)	48-1	公園の芝生化	16	
			48-2	学校の芝生化	17	
			48-3	保育園の芝生化	18	
			48-4	学校の緑のカーテン	19	
			48-5	公共施設・家庭の緑のカーテン	20	
48-6			公共施設の緑化	21		
48-7			民間建築物の緑化	22		
48-8			花と緑でいっぱい・区の花の制定	23		

次回 ヒアリング候補事業追加・削除取りまとめ一覧

《第6回 8月19日(金) 開催分》

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリング ○(追加) ×(削除)			
						当初案 による 事業数	延原 委員	木島 委員	三浦 委員
環境 ・まちづくり (11/25)	49	見沼たんぼ、荒川などの自然環境・歴史的遺産を保全・活用し、教育ファーム、市民農園など市民が憩える場所を増やします。(4年以内)	49-1	見沼基本計画の策定	1	1			
			49-2	歴史的遺産・自然環境の活用	2	2	×		
			49-3	教育ファームの実施	3	3	×		
			49-4	市民農園の整備	4	4	×		
			49-5	東宮下調節池の広場整備	5	5			×
			49-6	高沼用水路の整備	6	6			
	50	良好な住環境を守るための「高度地区」による高さ制限を導入します。(4年以内)			7		○		○
	51	下水道、都市公園、生活道路など生活密着型インフラ整備を推進します。(4年以内)	51-1	都市公園の整備	8				
			51-2	暮らしの道路・スマイルロードの整備	9		○		
			51-3	下水道の整備	10				
	52	効率的な道路ネットワークを構築するため、都市計画道路を抜本的に見直します。(4年以内)			11		○	○	○
経済・雇用 (2/20)	53	ワーキングプアを増やさない、部局横断的な「自立生活支援対策チーム」を設置します。(すぐ)	53-1	セーフティネットの構築	12	7			
			53-2	ステップアップの取組	13	8			

≪第7回 8月30日(火) 開催分≫

【※網掛けは、ヒアリング事業】

宣言・分野	No.	項 目	No.	個 別 事 業	評価 事業数	ヒアリン グ事業数
経済・雇用 (18/20)	54	介護、福祉、医療、教育、環境、農業などの分野を中心に「雇用倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	54-1	ものづくり企業支援事業	1	1
			54-2	テクニカルブランド企業認証事業	2	2
			54-3	戦略的企業誘致	3	3
			54-4	産学連携によるイノベーション創出	4	4
			54-5	新規就農者支援事業	5	5
			54-6	事業所内保育施設推進事業	6	6
			54-7	介護福祉士資格取得支援	7	7
			54-8	ホームヘルパー2級資格取得支援	8	8
			54-9	福祉介護人材の養成確保	9	9
			54-10	ものづくり人材支援事業	10	10
			54-11	マッチング事業	11	11
	55	市内の観光資源を有効に活用し、海外も含め観光客を積極的に誘致します。(4年以内)			12	
	56	起業家応援のための「ベンチャービジネス倍増プロジェクト」を実行します。(4年以内)	56-1	人材育成支援	13	
			56-2	創業環境支援	14	
	57	コミュニティビジネスの支援制度を充実します。(4年以内)	57-1	コミュニティビジネス育成事業	15	
57-2			コミュニティビジネス促進事業	16		
58	中小企業・小規模事業者への融資制度を充実します。(4年以内)			17		
59	企業のCSR活動の認証制度を創設・推進します。(4年以内)			18		
地域間対立を 越えて (3)	60	大宮駅東口再開発は、東日本の玄関口として経済・商業都市としての機能を高める開発を推進します。(4年以内)			19	12
	61	地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)			20	13
	62	市庁舎のあり方は、地域的対立を越えた視点から、市民の声を聞きながら検討します。(4年以内)			21	